

たてはく

国指定重要有形民俗文化財

「立山信仰用具」追加指定により価値高まる!



国指定重要有形民俗文化財
「立山信仰用具」追加指定記念展
「立山信仰と山麓の暮らし
—つながる先人の知恵—」
会期：4月25日(土)～5月31日(日)

立山博物館が位置する立山町芦峯寺集落は、かつて無本山天台宗の寺院と宿泊施設を兼ねた「宿坊」が林立する宗教集落でした。芦峯寺の宿坊家に伝えられた立山信仰に関する道具と山仕事などで用いた道具など計1083点は、「立山信仰用具」という名称で、昭和45年に国の重要民俗資料（現在の重要有形民俗文化財）の指定を受けました。

令和2年1月、国の文化審議会において、新たに160点の資料の追加指定の答申が決まりました。追加された資料は、立山信仰を支えてきたもう一つの集落である立山町岩峯寺の資料を核とするもので、追加指定により「立山信仰用具」の価値は一層高まりました。さらに立山信仰の特徴の随一である立山曼荼羅10

点も追加となりました。

来年、開館30周年を迎える立山博物館は、これまで展示活動を通じた情報発信のかたわら、地道に調査・研究を続けてきました。今回の追加指定はその成果の一部といえます。このことをきっかけとして、芦峯寺はもとより、岩峯寺の立山信仰についても今後さらに研究が進み、「立山信仰」の新しい側面が明らかになればと思います。

※平成30年10月5日に富山県有形民俗文化財に指定されていた「立山曼荼羅」8点は、今般追加指定の対象となったことにより、令和2年2月、県指定解除となりました。
(加藤基樹)

目次

国指定重要有形民俗文化財

「立山信仰用具」追加指定により価値高まる!	1
令和2年度前期特別企画展「立山があるある展」	2
布橋灌頂会開催記念展「布橋を渡る一あの世への橋と立山」	2
令和2年度後期特別企画展「戦国武将と立山」	2
山岳集古未来館資料紹介	
堀田彌一資料から—ナンダ・コートの装備⑧ 毛糸編五本指手袋	3
冬のミニ特別公開展「伝・佐伯有頼が熊に放った鍬!？」を開催	3
令和2年度催し案内	4
富山県[立山博物館] たてはく友の会令和2年度の会員を募集!	4
編集後記	4





令和2年度 企画展のご案内

前期特別企画展 「立山があるある展」

富山県のシンボルの一つである「立山」。その雄大さや気高さ、神秘的な姿は、私たちの心をとらえて離しません。この誇らしくて身近な「立山」に、私たちは愛着や憧憬、畏敬や信仰、またブランドとしての価値を抱いてきました。

それゆえ「立山」は、古くから文学作品や絵画、音楽やデザイン、キャラクターなどさまざまな「カタチ」で表現されています。なかでも、「これは！」と選んだ、4つのテーマを中心に紹介します。

文学作品…古の人々は「立山」にどのような思いを込め、言葉に託したのか。

絵画…人びとはどのようなイメージを「立山」に抱いて、絵筆に託したのか。

身近な「立山」…私たちの身の回りにある「立山」。

おなじみの景色やキャラクターに加え、知っているようで知らない「立山」がここにあります。



憧れとしての「立山」…「立山」に憧れ、あやかりたいと願った人びとの思いとはどのようなものか。

などなど、「立山」のいろいろな「カタチ」が時代を越えて大集合！人びとが「立山」に込めた「こころ」と「カタチ」を紹介します。あなたの心の中の「立山」、私のとっておきの「立山」を、ぜひ見つけてください。

(森山義和)

会期：7月18日(土)～8月30日(日)

【担当学芸員展示解説会】7月18日(土)、7月25日(土)、8月8日(土)、8月9日(日)、8月10日(月・祝)、8月22日(土)、8月29日(土) いずれも14:00～

布橋灌頂会開催記念展

「布橋を渡る—あの世への橋と立山—」

江戸時代、女性は五障三従の身などといわれて「墮地獄必至、極楽往生もかないがたし」と説かれ、立山への入山も許されませんでした。

立山の麓、芦崎寺集落ではこのような女性たちを救う法会として閻魔堂、布橋、媼堂を舞台に、「布橋灌頂会」が執り行われていたと伝えられています。

本年9月20日(日)に、復元イベント「布橋灌頂会」が開催されるのに併せて、江戸時代に芦崎寺集落で行われた「布橋灌頂会」について紹介します。(細木ひとみ)



平成29年度の布橋灌頂会

会期：9月8日(火)～9月22日(火・祝)

【担当学芸員展示解説会】9月12日(土)、9月19日(土)、9月20日(日) いずれも14:00～

後期特別企画展 「戦国武将と立山」

群雄が国々を割拠した戦乱の時代。戦国武将は「立山」といかなる関わりをもっていたのでしょうか。

戦国武将は、立山大権現あるいは媼尊への篤い信仰心を持ち、立山衆徒の宗教的な活動を手厚く庇護しています。そこでは戦勝祈願というより、先祖供養や逆修供養といった「宗教的作善」が多く見られ、ここに戦国武将にとっての「立山信仰」の一端を垣間見ることができます。また、中世の立山衆徒は宗教者であると同時に僧兵でもあり、南北朝時代から軍勢として参加し、秀吉の書状からはその力量を評価され、警戒されていた面もうかがえます。戦国武将と立山衆徒の駆け引きから、戦乱の世を生き抜くための芦崎寺の人びとの知恵とたくましい自立心を見ることができます。

本企画展では、南北朝期の桃井直常・直信、戦国期の寺嶋職定、佐々成政、豊臣秀吉、前田利家らの人物像とともに乱世を生き抜いた人びとの歴史を紹介します。

(高野靖彦)

会期：10月3日(土)～11月15日(日)



富山県最古の古文書
(正平8年・1353年)
桃井直信合力催促状
芦崎寺一山会蔵





山岳集古未来館 資料紹介

堀田彌一資料から—ナンダ・コートの装備⑧ 毛糸編五本指手袋

登山史研究家の布川欣一は、晩年の堀田彌一へ取材し、「堀田彌一の装備品 初のヒマラヤ登頂」に次を記した。

「手袋は、毛糸の五本指の上にノルウェー製のスキー手袋を重ね、さらにサージ製のオーバー手袋を重ねた。…(中略)…それでも手足は冷たく、凍傷にやられたという。」(『山道具が語る日本登山史』、1991)。

この、文中の「五本指」が、恐らくは今回紹介する毛糸編五本指手袋なのだが、そう即断できるほど資料情報は単純明解ではない。

この五本指手袋は羊毛糸の手編で、ページュの地に臘脂の模様が編み込まれる。模様はスカンディナヴィア(恐らくはノルウェー)伝統のデザインパターンで、手を繋ぐ少年少女が交互に連続する模様や幾何学模様が組み合わされる。背面の模様は一種のロゼットか。指を揃えると模様が連続して一体となるよう正確に編まれている。商標等はなく、国産の可能性も否定はできぬが、オリジナルの輸入品と考えるのが妥当だろう。

堀田の「手の装備」は、この五本指手袋(A)とオーヴァーミトン(B)の二種類・各左右一組が今に伝わり、これらが同梱された資料の包には「スキー用手袋」・「スキー用手袋(オーヴァーミトン?)」と併記された紙片が貼られる。

そうであれば、この「五本指手袋」も北欧(ノルウェー?)製の「スキー用手袋」なのだが、では、冒頭引用文内の「毛糸の五本指」(X)・「ノルウェー製のスキー手袋」(Y)との異同、また「サージ製のオーバー手袋」(Z)を含むこれら記述と伝存資料の関係はどう理解したらよいのだろう。

そもそもスキー手袋は、ストックの握りやすさ、高い防寒性能、物理的衝撃に対する防護、を必須の機能とする。だから、天然素材時代の北欧製スキー手袋といえば真っ先に皮革製手袋が思い浮かぶ。だが毛糸編のスキー手袋も勿論あった。スキー手袋の成立時期など詳細の判る資料を見出せず、実相はなお不明だが、皮革製アウターと毛糸編インナーの二重手袋などもあったか…と想像する。

(A)は編みが緊密で指は特に厚く編まれ、資料表記どおり「スキー用手袋」の可能性は高い。故に(A) = (X)または(A) = (Y)または(A) = (X) + (Y)。仮に(A) = (Y)では(A)の内側に(X)は装着できず不成立。(A) = (X) + (Y)は、(A)の属性が(X)と(Y)に分割記述されてしまった、との仮定だが敢えてそう考える根拠はない。

依って、(A) = (X)、(B) = (Z)、(Y)は滅失、との推定が妥当と思われる。一方、(A)が「ノルウェー製スキー用手袋」である確証は得られず、資料名称には「毛糸編五本指手袋」を用いた。

この堀田の五本指手袋は堅牢な造りであるにも拘わらず破損の修復箇所が目立つ。数え方にも依るが、右手用では掌側に集中して10箇所を優に越え、手首掌側から背面へ補修が延長される。左手用では背面は無傷だが、掌側に4~5箇所の補修がある。右手掌側の傷みが著しいのは、右手がピッケルを扱う利手だったからだろう。また両手の拇指基部にみえる傷みはザイル捌きや様々な場面で頻繁に繰り返された綱や紐の扱いによるのであろう。

いつどこで補修されたかの記録はないが、その繕いの痕に、今から84年前の過酷な登攀現場の先頭に立った堀田彌一の姿が想われる。(吉井亮一)



堀田彌一の毛糸編五本指手袋

写真左：掌面観、写真右：背(甲)面観(掌面・背面とも両手一組の、向かって左が右手用、右が左手用)。以下の寸法標示は、[右手用/左手用]、単位はcmまたはg。全長(履口~中指先端)：24/23.5、全幅(最大幅)：12.5/12.5、履口幅：11/11。各指長(指股~指先)：6/6 [拇指] 6/6 [示指] 7.5/7.5 [中指] 6.5/7 [薬指] 5.5/6 [小指]。厚さ：0.5/0.5 [手首側面] 0.9/0.8 [小指側面]。重量：53/52。

【お詫びと訂正】

前回111号記事「防風帽(オーヴァーフード)」の写真標題に誤りがあった。お詫び申し上げますとともに、次の通り訂正する。

《誤》堀田彌一のオーヴァーシューズ → 《正》堀田彌一の防風帽(オーヴァーフード)

冬のミニ特別公開展

「伝・佐伯有頼が熊に放った鍬!？」(2月7日~24日)を開催

「立山信仰用具」の資料調査の過程で岩嶺寺多賀坊の土蔵で発見された雁股鍬を初公開しました。『和漢三才図会』(江戸時代中期刊)に、立山雄山頂上の雄山神社峰本社には、立山の縁起や怪異伝承の「証拠」として披露された什物(宝物)があったと記されています。今回展示した鍬は、現存状況から什物の一つとみられる中世成立の伝世品です。立山の開山者「佐伯有頼が実際に使用した」と言われるだけでドキッとしますが、この伝承付きの鍬を見せながら縁起や伝説を語った立山衆徒と、時空を超えて伝説に思いを致した登拝者があった時代にタイムスリップさせてくれました。(加藤基樹)





令和2年度 催し案内

今年も
楽しいイベントが
満載!!

展示館(常設展示)
一般 300円

展示館(企画展示)
一般 200円
(70歳以上も含む)

大学生 100円

遙望館

一般 100円

まんだら遊苑

一般 400円

◆大学生と70歳以上の方は、企画展示のみ観覧料が必要

展示の開催準備のため、4月24日(金)、7月17日(金)、10月2日(金)は臨時休館いたします。

特別企画展

◆前期特別企画展
立山があるある展
7月18日(土)～8月30日(日)

◆後期特別企画展
戦国武将と立山
10月3日(土)～11月15日(日)

●特別企画展は立山博物館展示館1階・企画展示室で開催します。

◆青葉呈茶会 6月7日(日)
◆もみじ呈茶会 11月1日(日)、8日(日)

時間:11:00～15:00
場所:教算坊

◆道者衆の接待「坊家御膳の再現」

開催日:6月13日(土)、10月10日(土)
時間:各日とも11:30～13:00
場所:教算坊
定員:各回10名(要事前申込・実費負担あり)

◆たてはく探検隊

開催日:8月1日(土)
場所:立山博物館展示館、まんだら遊苑ほか
対象:小学生(保護者同伴・要事前申込)
定員:25名 ※参加費無料

その他の展示

◆国指定重要有形民俗文化財「立山信仰用具」追加指定記念展
「立山信仰と山麓のくらしーつながる先人の知恵ー」
会期:4月25日(土)～5月31日(日)

◆布橋灌頂会開催記念展
「布橋を渡るーあの世への橋と立山ー」
会期:9月8日(火)～9月22日(火・祝)

◎記念展は立山博物館展示館1階・企画展示室で開催します。

◆立山曼荼羅特別公開展「立山曼荼羅に描かれた神の依り代」
会期:12月15日(火)～2021年2月28日(日)

◆ミュージアム de ナイト in 芦峯寺

開催日:8月8日(土)・9日(日)
時間:18:00～21:00(入館は20:30まで)
場所:立山博物館展示館、教算坊ほか

◆まんだらナイトウォーク

開催日:9月5日(土)・6日(日)
時間:18:30～20:30(入苑は20:00まで)
場所:まんだら遊苑 ※雨天中止の場合あり

◆文化講演会「戦国の争乱と立山」

講師:高岡 徹氏(越中史壇会研究委員)
開催日:10月24日(土)
時間:14:00～16:00
場所:立山町元気交流ステーションみらいふ
定員:70名(先着順) ※申込不要、聴講無料

富山県 [立山博物館] たてはく友の会

令和2年度の会員を募集!

[友の会に入会するとこんな特典あります]

- 立山博物館の有料施設(展示館・遙望館・まんだら遊苑)の観覧が無料
- 特別企画展・記念展の観覧が無料
- 博物館の催し物案内や各種行事の案内を郵送
- 交流誌「たてはく」(年4回発行)と研究成果を掲載した「研究紀要」(年1回)を郵送
- 立山博物館オリジナルグッズが20%割引(一部除く)
- 友の会主催行事(たてはく友の会バスツアー等)への参加(一部、実費負担あり)

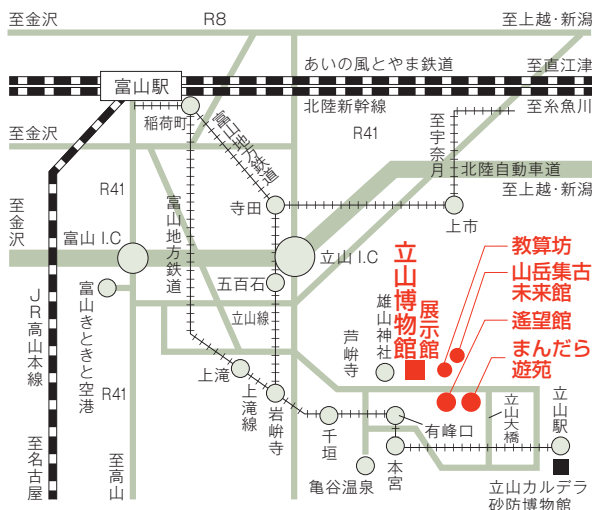
- ◎会費 一般会員 年額3,000円
賛助会員(企業・団体など) 年額20,000円(一口)
- ◎期間 入会の日より、令和3年3月31日まで
- ◎入会方法
①立山博物館の受付窓口で申し込みください。
②立山博物館「たてはく友の会」事務局(電話076-481-1216)に入会申込書をご請求ください。

編集後記

来たる令和3年、立山博物館は開館30周年を迎えます。そのプレシーズンにあたる令和2年度の秋には「布橋灌頂会」の現代的復元イベント開催に合わせた記念展をはじめ、新生「立山信仰用具」のお披露目展、そして通常の2つの楽しみな特別企画展の開催を予定しています。皆様のご来館をお待ちしております。

(加藤)

案内図



- 最寄り駅
富山地方鉄道立山線千垣駅
下車徒歩(約2km)
※日曜を除き町営バス運行
「雄神社前」下車すぐ
- 自家用車で
JR富山駅から 約45分
立山駅(千寿ヶ原)から 約10分
富山インターチェンジから 約35分
立山インターチェンジから 約30分

立山博物館のホームページはこちらから。



人間と自然のかかわり方を学ぶ

富山県[立山博物館]

〒930-1406 富山県中新川郡立山町芦峯寺93-1
TEL 076-481-1216 FAX 076-481-1144
<http://www.pref.toyama.jp/branches/3043/home.html>

Facebook あります! 立山博物館

